

自助論

第一章

サミュエル・スマイルス 著
畔 上 賢 造 譯

自助——國民及び個人

一國の價值は遂に是れ此國家を組織する個人等の價值なり。

吾人は制度に信を置くこと大に過ぎ、人に注意すること小に過ぎ。

ジョン・スチュアート・ミル

ベンジャミン・ガスレー

自助の精神

『天は自ら助くるものを助く』こは實驗によりて正確疑ふべからざる格言にして、語短なりと雖も、茫然たる人間經驗の結果を體現し盡くして餘蘊なし。自助の精神は、個人に於ける總ての眞正なる發達の根柢なり、而して多數の人、此精神を實行するや、是れ實に國家強盛の眞の淵源を爲す外、よりの助

けは、其結果、其人の力を弱め、中よりの助け(即ち自助)は、絶えず、其人の氣力を増す。人々自ら助けずして他より助けらるゝときは、自ら爲さんとの奮發心も必要も無くなるものなり、而して人々他より支配せらるゝこと多きに過ぐれば、寧ろ無能無力となることを免れず。

最良なる社會と雖も、人に實際的幫助を與ふことは、能はざるものなり。想ふに、人を束縛せずして自由に、其發達改善をなさしむることは、是れ社會の個人に對して爲し得べき最上ならんか、さうながら、古往今來、人は寧ろ自己の幸福安寧は社會國家の力に依りて確保せらるゝものと誤信し易くして、其自身の行爲に依りて確保せらるゝものなることを知らざりき、故に人類の進歩を助くる一物としての法律の價值は、常に過重せらるゝを免れざりき。三年若くは五年目に、一人若くは二人を選擧して立法部の一部を作ることとは、それが如何に正當になさるゝとも、各人の生涯に品性に實際的感化を與へ得ることは極めて小なり。加之、政府の能力といふものは、重みに生活、自由、財産等の保護に限らるゝを以て、積極的、活動的と謂はんよりも、寧ろ消極的

制限的と謂ふべし。こは近時益明かになりしことなり。法律にして賢く運用せられんか、以て國民をして比較的、小なる犠牲を以て、肉體の上に精神の上に其勤勞の成果を享けしむることを得しむべし。法律如何に峻嚴なりとも、惰者を勤勞者に、放逸者を節儉者に、飲酒者を禁酒者に變ずることは、能はざるなり。かゝる改善は、唯個人の行動節儉、克己等に依りて成熟せらるゝもの、即ち權力を大にすることに依らずして、習慣を善化することに依りてのみ成さるゝなり。

一國の政府は常に國民の反映なり。其人民よりも進歩せる政府は、其人民と同列に引き下げらるゝことを免れず、而して其人民よりも後にある政府は、遂には人民と同列に引き上げらるべし。國民の品性と、其國家の政治法律とは、常に正比例す。前者の向上と低落とは、直ちに後者の向上と低落とを來たす。是れ實に自然の大法なり。恰も水の水平を求むるが如し。高貴なる人民は、高貴に支配せられ、無智にして腐敗せる人民は、耻辱的に支配せらる。實にや。一國の價值と實力とは、其制度法律の上に據ること小にして、其人民の品

性の上に據ること大なることは幾多の實驗の吾人に證する所なり。何となれば、國家とは只各個人の狀態の綜合にして、文明其者は社會を組織する男子、女子、小兒の個人的改善如何の問題たるに過ぎざればなり。

國民の進歩は個人の勤勉精力正直の總額なり、而して國民の退歩は個人の怠慢我欲惡德の總額なり。個人正にして一國進み、個人惡にして一國衰ふ。吾人が常に大なる社會的害惡と認むるもの、大部分は、是れ國民衆の不正なる生活の結果なるを知る。而して吾人は、法律の力に依りて如何に、此社會的害惡を撲滅根絶せんと努むるとも、個人の生涯及び品性の狀態にして根本的に改善せられざる限りは、其効無かるべし。縱ひ一時効を收むるが如きことありとも、其社會的害惡は、其形を變へて更に新き勢力を以て再び盛に起るべし。此意見にして正當なりとせば、吾人は當然次の結論に達するを得べし。最高なる愛國、最高なる慈善は、法律を改め制度を更ふること。存せずして人を勵まし、人を助けて各自の自由獨立なる行動に依りて自らを改善し、向上せしむることに存するなりと。

人間進歩の據る所如何については、古より種々の謬説行はれたり。或は帝王に據るとなすものあり、或は愛國性になるとなすものあり、或は議會の法案によるとなすものあり。吾人は今帝王の出現を待ちつゝありとせよ、而して其出現するや、『其帝王を認めて之に従ふ國民の如何に幸福なるよ』と、然れども此説たるや、要するに萬事人民の爲めに存すれども、何事も人民に依りては存せずと云ふことを意味す。此説を標準として進まんか、社會の自由なる良心は破られて、速に壓制政治を來すに至るべし。帝王崇拜は偶像崇拜の最惡なるものなり。是れ單に力を崇拜するもの、其結果は拜金主義と等しく人を低落せしむ。遂に之に勝りて健全なる主義にして、國民の間に流布すべきものは、吾人が自助主義なるべし。此自助主義にして、充分了解せられ實行せらるゝときは、帝王崇拜主義は忽ち其跡を收むべし。自助主義と帝王崇拜主義とは正反對の二主義なり、而して彼ダイクトル・ユーゴーが筆は、劍よりも更に有力なりと言ひ得べし。

愛國性の力に據り、議會の法案に據らんとするも、是れ亦流行の迷信なり。吾人は茲に愛蘭の眞愛國者の一人なる彼ウキリアム・ダーガンが、第一回ダブリン勸業博覽會の閉會に際して吐露したる言を引用せん。彼曰く「眞實、余は獨立なる語を聴く毎に、未だ嘗て我國愛蘭を指す」と我市民とを想起せざることなかりき。曰く、吾人は甲處より獨立を得べし、或は乙處丙處より獨立を得べしと、是れ屢、余の聞き居る所なり、亦余は我國人が他國より我國に訪ひ來れる人々に大に期し望む所ありしことを聞けり。余は人と同じく、かゝる交渉の結果として、吾人の獲得する利益の大なることを認むると同時に、亦余は、吾人の工藝的獨立は、吾人自身の上に據るものなることを、今日まで深く感じたりき。余は信ず、單純なる勤勉を以てし、且吾人の精力を注意深く正當に使用せば、今は即ち最好の機會、最有望の時期なりと、吾人は既に一足の進歩をなしぬ、さりながら、堅忍は百事成功の源なり、而して吾人若し熱心に進み進みて止まざれば、余は信ず、余は我良心に於て信ず、吾人は暫時にして他國の人民と等しき安穩、幸福、獨立の地位に達するを得べきことを」

凡ての國民の其今日あるは、皆幾代かの人々の思索、勞作の賜なり。種々の階級、種々の境遇にある堅忍不拔なる勞作者、土地の耕作者、鑛山の發掘者、發明家、發見家、製造家、器械師、工匠、詩人、哲學者、政治家、等皆此國家進歩の爲めに貢獻せしなり。——各時代は前代の勞作の上に築きて、更に之を高き程度に引き上げつ。——かゝる高貴なる勞作者、文明の建設者、の不斷の連續は、工藝に於て、科學に於て、藝術に於て、混沌の中より秩序を造るべく、勉めぬ、かくて現在の種族は、豐饒なる土地の繼承者となりぬ。此土地は吾人の祖先の熱練と勤勉とに依りて準備せられたるものにして、吾人は之を耕耘して、之を低落せしめざるのみならず、更に之を改善して、子孫に譲り渡すべきものなり。

自助の精神は、各個人の奮闘的行爲に體現せられて、古往今來英人氣質の著しき特徴なりき。而して一國民としての吾人の力の尺度なりき。勿論、多數人民の上に位し、人々の崇敬を受けたる拔群の士も數ありき。されど、我國民の進歩は、寧ろ是等拔群の士よりは、小にして名なき、多數の人々に負ふ所あり。

りしなり。大戰に於て記録に存するものは、唯將帥の名のみなり。されど勝利は其大部分に於て個人の剛氣、兵卒の勇敢に依りしなり。而して人生も亦實に「軍人の戰の如し。」古より今に至るまで、勞作者の大なるもの多くは、無名の人なり。文明進歩の爲めに力を有せしことは、歴史に其名を留めし幸なる人々と等しかりしも、其名遂に世に知られざりし多數の人あり。縦ひ地位最も低き人と雖も、勤、勉、眞、面、目、的、的、醇、正、誠、直、を以て、其周圍に模範を供せば、今に於て後に於て國家の福祉の上に影響を及ぼすべし。何となれば、其人の生涯と品性とは、不知不識の間に他の人々の生涯に及ぼし、永く後代に善模範を傳ふればなり。

他人の生涯に行動に、最強の感化を與へ、眞に最善なる實際的教育をなすものは、個人奮闘主義なることは、日々の經驗の示す所なり。小學校や中學校や專門大學や、右に比しては、只是れ修養の極小の一端を與ふるものに過ぎず。吾等の家庭に於て、街頭に於て、帳臺の後に於て、仕事場に於て、彈機を用ふるに際し、鋤を使ふに際し、會計所に於て、製造場に於て、複雑なる人衆の中に

ありて、日々吾人に與へらるゝ人生教育は、其力あること、學校教育の及ぶべくもあらぬ所なり。こは實にシルレルが「人類の教育」と名けたる所、即ち人を社會の一員として教養するものにして、實行行爲、自修、克己等を教養せんとするものなり。——實行行爲、自修、克己の教養は、人を眞に訓練して、人生の職分、事務の完全なる遂行に適せしむる所以のもの。——此教育は、書籍を讀みて學び得べきものにあらず、單なる學問的修養を如何に積むとも、獲得し得べきものにあらざるなり。ベーコンは例の如く重味ある言葉を以て曰へり「勉學は學問の應用を教へず、こは觀察に依りて得たるもの。勉學無き而して勉學以上の智慧なり」と、實際生活に於て、又智的修養に於て、此言や誠に眞なり。如何となれば、凡ての經驗は、吾人に次の眞理を證明し主張して已まざればなり。人は讀書よりは寧ろ勞作に依りて自らを完全にす。——詳言せば、絶えず人を完成せんとするものは、學問よりは寧ろ生活なり。勉學よりは寧ろ實行なり。傳記よりは寧ろ品性なりと。

然りと雖も、偉人の傳記、殊に善人の傳記は、人を助け、導き、勵ますものとし

て最も教養的にして最も有用なり其最良なるものの中には高き生活高き思想及び自己の爲め社會の爲めにする奮闘的實行を教へて殆ど其價值福音書と等しきが如きものもあり此等の傳記は自助不屈の志望決斷的實行確乎たる誠直の途に眞に高貴勇敢なる人格を造ることを教へて之に關する價值ある例證を掲げたり而して此等の例證は明確なる文字に於て自己を完成するは各自の自力にあることを表はし又自重と自己信頼とは社會最賤の人にも貴ぶべき能力と堅實なる名聲とを獲得せしむる効力あることを言明せり

偉人は特
別一定の
階級より
出てず

科學文學技術の偉人——大思想の使徒大心情の高士——等は特別に一定せる階級より出てしものにはあらず彼等は學校よりも出てぬ仕事場よりも出てぬ農家よりも出てぬ——貧人の小屋よりも又富人の邸宅よりも出てぬ神の大なる使徒の中に兵卒より出てたるものもあり最貧なる者にして最富の地位を占めたることも屢ありき而して彼等の前途に横はれる困難や一見打ち破り難く見えしと雖も而も決して障礙となりしことはあらず

有名なる
人貧賤より
出づ

き音に障礙たらざりしのみならず是等の困難は實に彼等の勞働と忍耐との力を鼓舞し空しく萎縮せんとする能力を刺戟して生命を與へ以て彼等の成功を助けしこと多きが如しかくの如くにして障礙の打ち破られたる例かくの如くにして勝利の得られたる例は其數いとく多ければ「意志を以て吾人は何事をも成し得」と云ふ格言を殆ど證明すと謂ふべきなり例へば理髮師の店より出てしものにして最も詩的な神學者ジェレミー・テイラーあり紡績機の發明者にして綿製造の創設者たるサリリチャード・アイクライトあり高等法院長の最も俊秀なる一人たるテンテルデン卿あり最大なる風景畫家ターナーあり

シエクス
ピア

シエクスピアの如何なる境遇の人なりしかは正確には誰人も知らずされど其下層階級より出てし人なることは疑ふべくもあらず彼の父は屠殺者にして又牧畜者なりき而して人の想像する所に據ればシエクスピアは其早年に於て梳毛者たりしが如し又彼は學校の書記たりしが後に金貨の手代となれりと確言する者あり眞に彼は「一人ならず全人類の摘要」な

りしが如し。彼が用ふる水夫の言語の、極めて正確なるを以て、海事を旨とする一文士は、彼は水夫たりしに相違なしと曰へり。彼が作物の内容に依りて之を驗すれば、彼は多分僧侶の書記たりしならんと推測する。僧侶あり。彼は馬商人なりしこと疑ひなしと云ふ有名なる馬肉鑑定家あり。シェクスピアは確かに俳優なりき、而して其生涯の道行に於て『多くの役目をなしぬ』以て經驗と觀察との廣き野より知識の驚くべき貯蓄を集めたるなり。兎にも角にも、彼は綿密なる研究家にして、勤勉なる勞作者なりき。今日に至るまで、彼の著作は、英人が品性養成の上に、大勢力を奮ひつゝあるなり。

日傭勞働者の中より技師ブリンドレー、航海家ーク、詩人バーンス出たり。煉瓦師や屋根屋はベンジョンソンを其階級より出だせしことを誇り得べし。彼はリンカン旅館建築の時、手には鑊を持ち、衣囊には書物を有ちて働さしものなり。其他技師なるエドワーズとテルフォード、地質學者ヒューミラー、彫刻家にして文士なるアランカンニングハムについても、同一理由を以て誇り得べし。而して大工より出でたる有名なる人々の中に、吾人は

幾多卓越
の人半越
より出づ

建築家イニゴ・ジョーンズ、時辰表製作家ハリソン、生理學者ジョン・ハンター、畫工なるロムニーとオッビー、東洋學者リー教授、彫刻家ジョン・ギブソン等のあるを知る。

織工の中より出でしものに、數學者シムソン、彫刻家ベーコン、ミルナー兄弟、アダム・ウォーカー、ジョン・フォスター、鳥類學者ウヰルソン、亞弗利加の傳道旅行者博士リヴィングストン、詩人タンナヒルあり。靴工の中より出でしものに、彼偉大なる水師提督サー・クラウデスレー・シヨゲル、電氣學者スタートルジエオン、論文家サミュエル・ドリュエー、グォーターリー評論の記者ギッフォード、詩人ブルームフィールド、宣教師ウヰリアム・ケアレーあり。而して勤勉なる宣教師モリソンは、靴型の製造者なりき。近時、パンフに於ける靴工なるトーマス・エドワーズが、深識なる自然科學者なること發見せられたり。彼は靴製造を以て生計を營みつゝ、餘暇を専ら各種の自然科學の研究に委ねたりしなり。彼は小なる甲殼類に就いて研究する所ありしが、遂に一の新種を發見したりき。此新種を自然科學者はブラニザ・エドワーズイと名け

て彼の名を記念せり。

裁縫師にして其名を揚げしものあり。歴史家ジョン・ストーは此業を營みしことある人なり。畫家チャックソンは、成年に至るまで裁縫をなせり。ボイクチアーの戦に於て大に功名を顯はし、エドワード三世に依りて、其勇武の故を以て勳爵士に封ぜられし彼剛勇なるサー・デヨン・ホークスウッドは、早年の時、倫敦の裁縫店に職工たりしことあり。一千七百〇二年サキゴーに於て防材を破壊せし水師提督ホブソンも亦同じく裁縫師なりき。彼はウァイト島なるボンチャーチ附近の裁縫店の職工たりしが、或る日、一艦隊が沖中を航行せる由の報、村中に廣まりぬ。彼は此英姿堂々たる光景を觀んもの、と裁縫場を飛び出して仲間と共に海岸にかけ下りぬ。彼時に年猶ほ若き一少年なりしが、海軍々人にならんと希望突如として胸に燃えぬ。彼は輕舟を漕ぎて艦隊に至りぬ。彼は直ちに義勇兵として此艦隊の人となりぬ。爾來幾星霜、彼は赫々の功名を抱きて故郷に歸りぬ。而して嘗て彼が一職工として働きし小屋に於て、鹽豚を食ひ、鶏卵を食ひぬ。さりながら、裁縫師より出て

し中の最大なるものは、疑ひもなく北米合衆國の大統領アンドリュース・デモンソンなり。——彼は此上なき品性の力と強健なる智性とを有せる人なり。華盛頓に於ける彼の大演説の時、彼は自己が市長として其政治的生涯の初舞臺に入り、立法部の各部を経過して今の地位に達せしことを述べし時、聲あり聽衆の中より叫びて曰く『仕立屋の成りあがり』と。嘲弄に會ひて少しも怯まず却つて之を我利益に更ふるはデモンソンの得意とする所なり。乃ち曰く『只今余が仕立屋なりしことを申せし人あり。されど、こは余に取りて少しも迷惑を感ずることあらず。何となれば、余の仕立屋たりし時は、余は仕立て方上手にして、好き仕立屋なりとの評判を得たりければなり。余は常に顧客に對して約を違へざりき。余は善良に仕立てたりき』と。あ

法務長ウルシー・デフォール、アケンサイド、及びカーグ・ホワイトは屠獸者の子なりき。パンヤンは補鐵工なりき。ジョセフ・ラシカスターは監製造人なりき。蒸氣機關の發明者たるニュー・コメンは鍛工なりき。同じくワットは數學器械の製造人なりき。同じくスライブソンは蒸氣機關の火夫なりき。説教

家ハンチントンは石炭掘夫なりき。木版の創始者ベウキックは石炭坑夫なりき。ドーズレーは家僕、ホールクロフトは馬丁なりき。航海者バツフィン、橋の前に立つ水夫として、サークラウデスレー・シヨヴェルは船室のボーイとして、各其海上生涯を始めたりき。ハーシエルは軍隊に於て笛を吹く人なりき。チャンドレーは日雇の彫刻師、エックレーは日雇の印刷者なりき。サートーマス・ロレンスは飲食店の子なりき。ミケール・フアラデーは鍛工の子なりし。か、早年にして製本屋の職工となり、二十二歳まで此職にありき。然るに今は哲學者として第一流に位し、自然科學の隱を聞き微を極むる點に於ては、其師サー・ハンフリー・デーヴィーに勝ると云ふ。

彼崇高なる天文學に大貢獻を爲せし人々の中に於て、コペルニクスは波蘭の麵包屋の子なり。ダブレルは獨逸の酒舗の人にして、其身は給仕のボーイなりき。ド・アレムベルトは、冬の一夜巴里のサント・ジヨナル・ロンド寺院の階段に棄てられありしを、拾はれて玻璃職人の妻に依りて養育せられたる人なり。而してニュートンはグラムサム附近の小借地人の子、ラブラスはホ

卓越せる
天文學者

き、右の人々は、早年に於ては、其境遇、比較的、不良なりしにも拘はらず、其天賦の才能を善用して、全世界の富を以てしても買ふ能はざる、堅實恒久の名聲を購ひ得たり。彼等若し富家に生れたりしならば、其有する富は、其貧窮よりも却つて彼等の障礙となりしならん。天文學者にして數學者なりしラグランデの父は、チュリンの軍事主計官たりしが、投機事業に關係して破産し、爲めに一家、貧に迫れり。後年ラグランデは、自己の名聲と幸福とは、半は此貧境界の賜なりと言ふを常とせりき。彼は曰ひき、余にして若し富人なりしならば、余は多分數學者となる能はざりしならん」と。

牧師の子
越せる者

牧師の子より出て、我英國の歴史に其名を揚げし人は殊に多し。彼等の中にドレーキあり、ネルソンあり、共に有名なる海軍人なり。科學に於て有名なるウオラストン、ヤング、ブレイク、及びベル、藝術に於て有名なるレーノルズ、ウキルソン、ウキルキー、法律に於て有名なるサーロー、キヤムペル、文學に於て有名なるアディンソン、トムソン、ゴールドスミス、コーレリッヂ、

テニス、皆牧師の子なり。印度戦争に於て其名を高くせるハーディン・シ卿、大佐エドワード・デス、及び少佐・ドソンも亦牧師の子なり。げにや英領印度を獲て之を保ちしものは、主として中流階級の人、多くは印度なる英の商館に入と成り、商業事務に馴れたる人々——なり。クライヴ、ウアーレン・ヘスチング及び其後繼者等皆然り。 ㊦

辯護士の子より出てたるものに、エドモンド・パークあり、技師スミートンあり、スコット、ウォルツ、ウォースあり、ローズ・ソマース、ハードウキック、ダンニングあり、サー・ウキリアム・ブラックストーンは、生絲商の子なり、ギッフォード卿の父は、ドヴァーの雜貨商人なり、デンマン卿の父は醫師なり、判事タルフォールズの父は田舎の釀酒家なり、高等法院長ボルロック卿の父は、チャリング・クロスの有名なる鞍工なり、ニネヴェの古跡發見者、レーヤードは、倫敦に於て辯護士事務所の書記なりき。水力器械とアームストロング式大砲とを發明せしサー・ウキリアム・アームストロングも亦法律を學修して辯護の職業を營みしことあり。ミルトンは倫敦の代書人の子なり。ポーブ、サウゼ

卿の父は、ドヴァーの雜貨商人なり、デンマン卿の父は醫師なり、判事タルフォールズの父は田舎の釀酒家なり、高等法院長ボルロック卿の父は、チャ

ーは共に麻布商人の子なり、ウキルソン教授は、ベースレーの製造工の子なり。マコーレー卿は亞非利加商人の子なり。キーツは賣藥屋なりき。サー・ハンフリー・デーヴィーは地方の藥種商の徒弟なりき。デーヴィーは自己についてかく曰ひしことあり、『余の現在の位置は、余自身の造りし所なり、是れ余の虚榮なく、心偽る所なくして、言ふ所なり』と。博物學のニウトンとまで稱せらる、リチャード・オーウェンは海軍少尉候補生として其生涯を開始せし人、後科學研究に於て大に其名を著はせりと雖も、其科學研究に入りたるは比較的後年の頃なりき。彼は凡そ十ヶ年間、外科醫學校に於てデモン・ハンターが勤勞の結果、集め得たる天然學術の珍品の目錄を作り居りしが、此間に於て彼の博大なる知識の根柢は成りしなり。

勤勞と天才とに依りて、貧賤より起りて名を成したる人を記載すること、外國の歴史も亦英國の歴史に譲らず。藝術に於て麵包師の子クラウドあり、麵包屋の子ギーフスあり。時計師の子リオボルド・ロバートあり。車匠の子ヘイダウンあり。而してダーゲルは劇場にて用ふる風景畫を描ける者なりき。

羅馬法王グレゴリー七世の父は大工なり、同セクスス五世の父は牧人なり、同アドリアン六世の父は貧賤なる舟子なり、アドリアン少年なりし時、貧にして書を讀まんとするも、燈火を點ずること能はざりしかば、街頭又は寺院の玄關なるラムブの光に依りて、課業を準備するを常としたり。是れ彼の忍耐と勤勉との大なることを示すもの、彼の後年の卓絶せる名は之あるに由れり。貧賤より起りしものには、尙ほサント・ジュストの織工の子、鑛物學者ホーイあり、オルレアンの子、器械學者ホーテフェルあり、オークスエアの裁縫師の子、數學者ジョセフ・フーリルあり、巴里の靴屋の子、建築家デユランドあり、チューリッヒ革職人の子、博物學者ジェスナーあり、ジェスナーは、貧窮、疾病、家庭の災禍によりて種々の不利益を破りつゝ、其生涯を始めしが、彼は之が爲めに勇氣を沮喪することなく、進歩を妨げらるゝことなかりき。爲すべき仕事最も多くして喜んで勤勞するものは、最も多くの時を見出し得べしと云へる古語の眞なることは、彼の生涯が著しく之を證明すと謂ふべし。ピローラムスも右と同様なる性質の人なりき。彼の兩親はピカー

ディの貧人なりき。彼は幼時傭はれて羊を牧するを業とせり。然れども彼は此職を好まずして巴里に走り、多くの艱難に遭遇せし後、學僕としてナヴァーレン専門學校に入るを得たり。此位置は彼に勉學の道を開き、暫時にして彼は當時の著名なる者の一人となりたり。

化學者
ヴァウケ
エリン

化學者ヴァウケエリンは、カルヴァドスなるサント・アンドレ・ヘルベトートの農夫の子なり。幼にして學校にあるや、粗衣を纏ひたれども、聰明なる智性を有したりき。彼に讀み書きを教へたる教師は、彼の勤勉を賞する時かく言ふを常としき、『行れよ、勉めよ、學べよ、見よ、御身はいつかは寺院の役人の如く美衣を着くるに至るべし』。偶々地方の一製藥家、此學校を訪づれしが、童兒なるヴァウケエリンの強壯なる腕を賞め、我と共に我製藥場に行きて藥を搗き碎くことをせずやと申出しぬ。ヴァウケエリンは己の勉學を續け得べしと考へしかば、製藥家の申出でを承諾して彼の家の職人となれり。然れども製藥家は彼に勉學の時間を毫も與へざりしかば、彼はサント・アンドレを去りて包を背に負うて巴里に上れり。彼は巴里に到着して、製藥舗の小僧

佛國に於ける兵卒の墜進

の口を求めたりしが、得る能はざりき。今は貧窮と疲勞との襲ふ所となりぬ。かくて彼は病に臥しぬ。其病體は病院に運ばれぬ。彼は自ら死すべしと思ひたりき。さうながら此憐れなる少年の前途は過去に比して幸なりき。彼は回復して再び職業の搜索を始めしが、遂に一製藥舗に傭はるゝことを得たり。後暫くにして有名なる化學者フォールクロイの知る所となり、彼の氣に入りて其秘書役となりしが、多年の後、フォールクロイ死して、彼は化學の教授となりぬ。終に一千八百二十九年カルザアドスの選舉人等は、國會に於ける代表者として彼を選舉し、彼は幾年の昔、貧賤無名のまゝにして去りたりし故郷へ、今は錦衣を着けて入りしと云ふ。

一、兵卒より登りて、武官の最高位に進みし例、佛國には、遙に英國よりも多し。この事は佛國に於ては第一革命以來殊に多きなり。功名の道は才能ある人に開くとの言は、佛國に於ては多數の顯著なる例證を得たり。若し登庸の道開けたらんには、我英國も此點に於て亦佛國と角するを得ること疑ひなし。ホーシ、フムベルト、ビースグル、各兵卒として其生涯を始めたりき。ホー

シは近衛軍隊にありし時、金を獲て兵學の書物を購はんが爲め、短衣を刺繡するを常とせり。フムベルトは、青年の時無賴漢なりき。十六歳にして家を脱出し、或はナンシーの商賈の奴僕となり、或はリオンの工人の奴僕となり、或は兎皮行商人の奴僕たりき。一千七百九十二年、彼は義勇兵として入營し、一年の後、旅團長となれり。クレールベル、レフエザル、スーシェー、ヴァイクトル、ランネス、ソールト、マスセナ、サントシルド、アルロン、ムラット、アウジエロー、ベシリレス、ネー皆兵卒より起りたり。トゥルの柔皮工の子なるサンシールは、初め俳優なりしが、後輕裝隊に入營し、二年ならずして大尉に登りたり。ペルノ侯ヴァイクトルは、一千七百八十一年砲兵隊に入りしが、佛蘭西革命前に於て兵籍を解かれたり。然るに忽ちにして戦争開始せられて入隊し、雄才、膽略、數月を出でずして少佐となり、大隊の指揮に任じぬ。ムラットは、ベリゴールドの一田舎旅店の子にして、馬の世話をなし居たりき。初め彼輕裝兵聯隊に入りしが、上官に服従するを好まずして除籍せられたり。されども後再び入營して、忽ちにして大佐に登りぬ。ネーは、十八歳にして輕騎兵聯隊に入り、漸

次上級に昇進したり。クレイベル、ネーの軍功を認め、彼に附するに「不屈」の綽名を以てし、僅に二十五歳の彼を、副將軍に登庸したり。然るに他方を見るに、ソールトは、軍曹の位地に達するに入營後六年を費したりき。されども、ソールトの昇級も、マスセナに比しては速なりしなり。即ち彼は入營後十四年を経過して始めて軍曹となるを得たり。後彼漸次昇進して大佐となり、師團長となり、元帥となりしが、彼は軍曹の位置は之を得るに最も努力を要したりと曰へり。佛國軍隊に於ては、かく兵卒より將軍に昇ること、今日まで繼續し居れり。現佛國陸軍大臣、元帥、ランドンは、軍隊に入りし最初は鼓手なりき。されば、ヴェルセルの繪畫展覽所にある彼の肖像は、其手を大鼓の頭に置き、是れ彼の好みに依りてなり。右の如き例は、佛國の軍人を鼓舞して軍務に熱心ならしむ。是れ兵卒等、他日己も亦元帥たるを得べしと感ずればなり。

ソールトは、青年の時、教育を受けしこと、尠なりき。佛の外務大臣となりし時、
さて、彼は殆ど地理學を學ばざりしと云ふ。而して外務大臣となりて、地理學の

堅忍なる
専心と
の質

研究は、彼に最大の快樂を與へたりと云ふ。
堅忍なる専心及び精力の力によりて、最卑賤の地位より起りて社會に於

フ
ラ
セ
ト
ン

ける有用有力の人となりしもの、英國及び他國に於て、其例實に多し。されば既に久しき以前、かゝることは世に珍らしとせられざるに至れり。卓絶せる人々について觀察するときは、吾人は殆ど「年少にして困苦逆境に會することは、成功に必要缺くべからざる條件なり」と謂ひ得べけんなり。英國下院には、かゝる「自己の力にて成功せし人」の數、甚だ多きを例とせり。彼等は英國人の勤勉なる性格を恰好に代表せるものにして、彼等の下院に於て歡迎せられ、重んぜらるゝは、實に吾國立法部の信用を起すものと謂ふべし。サルファードを代表せる代議士故デョセフ、ブラザートン、嘗て「十時間方案」の討論の時、感慨に堪へざるが如くにして自ら綿布製造場の職工たりし時受けたる勞苦と困憊とを詳述し、「若し能ふべくんば、勞働者の境遇を改善せんことを勉めん」との決心を當時起したる旨述べたりき。ブラザートンの演説終るや否や、サーデームス、グラハム、拍手喝采に迎へられ起立して曰く、「余はブラザートン君がかく卑賤なる地位より出でし人とは、今日まで知ることあらざりき。然れども、身卑賤より出でしものにして、世襲の紳士と同等同列

に坐するを得るを思へば、彼が元來下院の人たりしよりも多く誇りとなすべきなり」と。

フオック

リンドセ

オールドハムを代表せる代議士故、フオックス氏は過去の生涯の回想を述ぶるときは、先づ余がノルウヰッチに於て機械屋の職工たりし時と言ふを常とせり。而して氏と同様に卑賤より出てたる代議士にして尙ほ生存せるものも數あり。近頃までサンダーランドを代表せる國會議員なりし有名な船持人リンドセー氏は、其政敵の攻撃に對する返答として、ウエームスの選舉人等に自己の經歷を簡單に語りしことあり。彼は十四歳にして孤兒となり、現世に邁進せんとして先づリヴァプールに向つてグラスゴーを去りしが、船賃を拂ふこと能はずして、船長と約して、船賃の代りに働くこととなり、石炭庫の石炭を掃除して、船賃仕拂の代となせり。彼はリヴァプールに於て七週間を経て未だ職を得る能はず、小屋に住みて憐れなる生活を營みしが、辛うじて西印度航行の船にボーイとして入るを得たり。而も其行狀正確善良なるを以て、未だ十九歳ならずして、一船の指揮に任ずるに至れり。

二十三歳にして彼は海より退きて海岸に居を定めたりしが、後彼の進歩は迅速なりき。彼曰く『余は榮えぬ、正確なる勤勉、不斷の勞作及び汝の欲する所これを人に施せと云へる大主義を忘れざることに依りて榮えぬ』と。

ウキリアム・デ・ヤックソン

北デルビーシャー選出代議士バーケンヘッドのウキリアム・デ・ヤックソン氏は、リンドセー氏と甚だ相似たる經歷を有する人なり。ランカスターの外科醫たりし氏の父は、十一人の子ある家族を遺して死にき。ウキリアム・デ・ヤックソンは其第七子なり。其中既に長ぜるものは、父の生存中充分に教育せられありしが、年少なるものは父の死後は自ら我身を支へざるべからざるに至れり。ウキリアム時に未だ十二歳ならざりしが、學校を退きて一船の側に朝の六時より夜の九時まで勞役に従ふこととなりぬ。主人病に臥すに及び、彼は計算所に入りしが、此處は前よりも餘暇多く、爲めに彼は讀書の機會を得、大英國百科全書を觀るを得て、甚少しく夜多く讀みて遂にA部よりZ部に至るまで全卷を通讀せり。後彼は商業に従事し、勤勉にして成功したり。現今彼の存する船舶は殆ど何れの海灣にも到り、殆ど世界の各國と貿易し

故リチャードコブデンも、亦貧賤より起りし人、以て下層より起りて卓越したる人々の中に數ふべし。彼はサッセックスなるミッドハーストの小農の子、少にして倫敦に送られ、一倉庫の小僧となれり。彼は勤勉にして、行正しく、知識を得んと、念熾んなりき。舊思想なる主人は、過度の讀書を戒めたるが、彼は書中より得たる知識の富を心に貯へつゝ、依然として其勉學を續けたりき。彼は漸次其地位を高め、——註文を取りつゝ顧客を廻り歩く役となり、——知人も甚だ増すに至り、遂にマンチェスターにて白布印刷業を開始したり。彼は公共問題に趣味を有する人にして、殊に民衆教育には特別の趣味を有するの人。彼は漸次穀物條例の問題に注意を向くるに至り、此條例を廢止せんとて、其財産生命を賭して努めしと云ふ。奇異なることながら、彼が公衆の前にてなせし處女演説は、全く失敗に終りたりき。然れども、彼元來剛毅専心、精悍の資、不屈の練習を以て、遂に有力なる演説家となり、サー・ロバート・ピールさへ、衷心より彼の演説を賞讃せしと云ふ。佛國公使ドルーラン・ド・

ルウィースは、いみじくもコブデンについて斯く云へり。『彼は堅忍と勤勞とが成功の道なることを示す活ける證據なり。社會の最賤位より起りて自己の力と勤勞とにより、遂に人の以て最高と認むる位置に達したる人の最上なるものなり。而して彼は英人固有の堅實なる性質を最も完全に有するものなり』と。

上述の如き例に於て、専心勤勉は世に卓絶するの道なりき。一業に於て人に勝るは懶惰者の能くするところにあらずき。勤勉の手と勤勉の腦髓のみ以て修養と才智と事務との進歩を來すを得べし。富貴の家に人と成りしものと雖も、堅實なる名聲を得んには、只専心勤勉にのみ頼るべきなり。何となれば、土地財産は之を子に譲るを得ると雖も、智識才能は到底之を譲るべし。能はざればなり。富裕の人は報酬を拂ひて人に仕事を爲さしむるを得べし。然れども我思考は人に代らしむるを得ず。金銭を以て人の修養を買ひて我物とすることは不可能なり。げにや『一事に卓越せんことには唯勤勉専心に依りてのみ得らるべし』と云ふ格言は、富者についても、又ドルー、ギッフホ

ワールド、ヒューミラーの如き貧者についても均しく眞なり。ドルーとギッフ
ワールドは靴屋の店にありしのみにて學校に通はず、ヒューミラーはクロ
マーティの鑛坑にありしのみにて學校に通ひしことあらざるなり。

富裕安逸は、人の最高なる修養に毫も必要ならざることは極めて明かな
り。若し然らずとせば、社會が古より今に至るまで、貧賤より出てたる人々に
かくも負ふ所あらざる筈なり。人安逸奢侈の生活を送るときは、患難に際し
て奮闘努力するの力を得ず。又人生の奮闘猛進に大に必要なる自信力を生
ぜざるなり。げに、貧苦は常に不幸ならざるのみならず、自助に依りて猛心す
る人には、寧ろ幸福なりと謂ふべし。貧苦は人を鼓舞して人生の奮闘に投ぜ
しむ。蓋し此奮闘に於ては、安逸を求むるものは、失墜し、誠實に眞情の人は、勢
力、信用、勝利を得ればなり。ベーコン曰く「世人は富と云ふものをも、力と云ふ
ものをも能く了解せざるが如し。富に關して彼等の信ずる所は大に過ぎ、力
に關して彼等の信ずる所は小に過ぎ。自己に依頼し、自己を制するものは、我
自身の井戸より水を汲み、我美味の麵包を食し、眞に生活のために學び勤勞

し。我に信託せられたる善き物を注意しに用ふることを習ひ得べし」と。

富人階級
者なるに
あらず

其實例

軍人

安逸放肆に傾き易きは人の天性たるが、特に財に富める人は之に陷る憂
あり。されば富裕の家に生るゝも、遊樂を賤みて勤勞の日々を送り、當代の社
會にありて活動を旨とする人は大なる光榮を得るなり。我英國に於て、富者
が一般に怠惰者ならざることは、富人階級の名譽なり。彼等は國事に與かり
て、充分其任務を盡くし、國家危急の場合には、人一估其苦を分つを常とす。半
島戰爭の時、一中尉あり、其聯隊の傍にありて泥土の中をしがき苦みて進み
つゝありき。之を見し一人曰く「彼處に一年の收入一萬五千磅の人歩む」と。而
して現時に於ては、或はセバストポールの寒疎なる坂に、或は印度の焦熱の
地に、我國の上流富貴の人の、右の如き高潔なる克己と献身とは遺憾なく證
明せられたりと謂ふべし。位階あり財産ある幾多高潔勇壯の士、或は印度に
て、或はクリミアにて其命を危くして、或は之を失ひて、祖國のために盡くし
たるなり。

哲學者

富人階級は哲學や科學の平和なる研究に於ても亦卓絶せざりしにあら

ず、例へば近世哲學の始祖ベーコン、科學に於けるウースター、ボイル、カヴェンディッシュ、ニュ、タルボット及びロス等の如し。ロスは華族中の大器械學者と謂ふを得べし。彼若し華族の家に生れざりしならば、發明家として最高位を占めたるならんか。彼が工事の知識に通ぜしことは、彼の華族なることを知らざる一工業家が、或る時彼に一大工場の長たらんことを求めしにても知るを得べし。彼の創造せし望遠鏡は、之をロス氏大望遠鏡と名づけ、古來最も優れたる望遠鏡なりと云ふ。

然りと雖も、我國上流の人にして最も強烈なる勤勞をなしたる者は、重もに政治上文學上なり。政治上文學上の成功も、他に於けると同じく、勤勉、實行、研究に依りてのみ得らるゝなり。大臣の偉なるものや、議會に於ける首領や、皆是れ最も精勵なる勤勞者なり。バルマー、ストーン然り、ダービー然り、ラッセル、デズレリー、グラッドストーン等皆然り。是等の人々、勞働者たりしことはなかりしと雖も、國會の繁忙なる間は、殆ど晝夜共に働きて二倍の仕事爲せり。輒近に於てかゝる政治的勤勞者の最も有名なるは、疑ひもなく故サ！

ロバート・ビールなり。彼は非常なる精力の人にして、精神的勞働の連續に堪へ、且つ自ら愛惜する所なかりき。彼の生涯は、比較的卓絶の資性を有せざる人にて、我々たる専心により、不屈なる勤勉により、以て大事を成就し得べきことを著るゝ證明するものなり。彼議院に席を有すること四十年、其間勤勞甚だ力めたり。彼は最も良心鋭敏なる人にして、爲さんと企てしことは必ず十分に成したりき。彼が一問題に關する演説は、其問題についての口演又は筆記を綿密に研究せしことを示さざるはなし。彼心力を勞すること殆ど過度に及ばんとす。其人に語るときは、讀者の能力に應ぜんがため苦心することを毫も厭はず。又彼は實際的類智を有し、強烈なる志操を有し、健腕健眼を以て我行爲を支配するの力を有せり。一事彼の特に多數の人に優れたるものあり。即ち彼の識見は年と共に益々擴大し、彼の性質は時と共に益々圓熟に及びたること。是れなり。彼は最後に至るまで新思想を受くるを怠らず、人は多く彼を以て謹慎に過ぐとなせども、彼は決して過去の我を以て足れりとなして之に満足することなかりき。蓋し我過去に誇ることは教育ある

多數人の病にして、老年の人をして憐れなる有様にあらしむるものなり。
 ブルーハム卿の勤勉にして倦むことなきは、世遍く之を知れり。彼の公人生活は、六十年以上の長きに及びたり。此間彼は法律、文學、政治、科學に従事して皆これに卓越せり。彼如何にしてかくまで成功し得しか、多くの人は之を知らざりき。曾てサー・サミュエル・ロミリーが一事を爲すことを依頼せられたる時、自らは時間なしとて之を拒みたり。されども彼は曰ひぬ、然し、此事を彼ブルーハムに頼み見給へ。彼は何事をなす時間をも有するが如く見ゆ」と。彼の成功の秘密は彼が一分時をも浪費せざりしことなり。且つ彼は鐵の如き體格を有し居たり。彼既に頽齡に及びぬ。世の常の人ならんには、世より退きて靜に餘生を樂み、安樂椅子に睡眠を貪るべきを、彼は光線の法則に關する研究を始め、精勵苦心之を成就し、倫敦、巴里の學者に其結果を提出したり。殆ど同時に彼は「デ・ジョージ三世時代の科學者及び文學者」と題する一小著を著述出版し、上院に出席して法律事務政治討論に與かりて力を盡くしたり。シドニースミス、曾てブルーハムに忠告して曰く「君の勉むる所、あまりに

多し、精力強き人の三人だけを爲すことに制限せられよ」と。然れどもブルーハムの勤勞を好むことは既に久しき習慣となりて、如何なる精勵にも堪へ得るに至りぬ。人は評して曰く「彼若し靴磨人なりしならんには英國第一等の靴磨人とならずば満足せざりしならん」と。以て彼の世に卓越することを願ひしを知るべし。

貴族にして勤勉勞作せし人、他にサー・ブルワー・リットンあり。小説家として、詩人として、劇曲家として、歴史家として、論文家として、演説家として、又政治家として、彼以上勉め彼以上世に著はれし文士は殆どなし。彼は安逸を嫌ひ、向上の一念に勵まされて、一步一步其道を進みぬ。單に勤勉の點より見るときは、現英國の文士にして彼ほど多く書きしものは殆どなく、高尚なる作物を著はせしこと彼の如きは全くなし。ブルワーの勤勉なることは、世人之を賞揚して、彼は全く意志の力を用ひて勤勉するなりと云へり。狩獵を好み、安逸に耽り、——俱樂部に出入し、演劇を樂み、遊樂の時節には倫敦を訪うて遊覽に耽り、又田舎の邸宅に行きて戸外の遊樂を事とし、——巴里に維也納

に羅馬に漫遊することは、快樂に耽る富人等のいたく好む所なり、而も是等のことは、彼等をして好んで勤勞に従事せしむる所以の道にあらず。ブルワー、貴族の家に生れたれば、右の如き歡樂を求め得べきも、身文學者の位地を占め、文學者の生涯を送りて、決して逸樂に耽ることあらざりき。其最初に世に出せしは、バイロンの如く詩にして『海草及び野花』と題するものなりしが、失敗に終りたり。第二の作は『フォークランド』と云ふ小説にして、是れ亦失敗せり。薄志弱行の人ならんには、これに失望して、著作者たることを罷めしならん。されどもブルワーには勇氣あり、堅忍あり、進み進みて成功せんと企てぬ。彼は、絶えず勤勉にして、普く書を讀み、失敗の跡を受けて、勇進、又勇進、遂に成功に至りぬ。『フォークランド』の後一年ならずして『ベルハム』出てぬ。後今日に至るまで、彼の文人生涯は三十年以上に及びて、凱歌不斷の繼續なりき。

ヂスレーリ氏は、公人として世に盛名ありし人、又勤勉精勵の功を示す好例なり。彼が最初の成功はブルワーと同じく文學に於てなりき。彼は失敗に失敗を重ねたる後始めて成功したる人なり。其著『アルロイの不思議物語』及

『革命の叙事詩』は、世人より嘲笑を以て迎へられ、單に文學的狂氣を發表せる者と見做されたり。然れども他の方面に其勤勞を續けて、『コングスビー』『シビル』及び『タンクレッド』を著せり。是等は皆彼が資質の純良なることを示すものなり。演説家としても亦下院に於て其處女演説に失敗しぬ。其演説は華言壯語より成りしと雖も、一句毎に哄笑を以て迎へられぬ。ハムレット劇も之を喜劇として演ぜられては、げに信値なきものなり。然れども結尾の一句は彼の將來を正確に豫言したり。彼の苦心の演説を迎ふる笑聲の下に屈しながら、彼は曰ひぬ、『余は屢々數多の事を始めたりしが、遂には其れに成功したり。余は今演説を罷めん。されど時來らば諸君余に傾聽せん』と。時は遂に來ぬ。彼は世界第一等の紳士の集會なる英國議會の注意を牽くに至りぬ。是れ精力と決意との爲す所大なるを示すものと謂ふべし。何となれば、ヂスレーリの其地位を得たるは、専ら忍耐勤勉の力に由ればなり。多くの青年は一度失敗せば沮喪して退き、一隅に憂悶哀哭するを常とす。されどもヂスレーリは決して此態を學ぶものにあらず。精勵刻苦其勤勞を怠らざりき。彼は

ウオルズ
自己依頼
を論ず

ドット
グワネ
ル其勤勉
及び他
の補助を
必要とし
しこと

注意して其缺點を改め、聴衆の性質を學び、専心辯舌を修養し、勉め勵みて議會に關する知識を腦中に貯へたり。彼は成功を得んとて堅忍勞作しぬ。而して成功は來りぬ。然れども靜かに來りぬ。かくて議院は彼を笑ふを罷めて彼と共に笑ひぬ。彼が舊時失敗の記憶は拭ひ去られぬ。人は皆一致して彼を議會の最完全最有効の辯士の一人となすに至りぬ。

個人の對勉精勵が成功の道なることは、前述の例及び以下に記さんとする例の示す所なり。然れども之と同時に吾人の承認せざるべからざることは、人生の行路に於て人よりの幫助が亦大に重要なことなり。詩人ウオルズウオルズのかくいひしは誠に當れりと謂ふべし。曰く「男らしき依頼と男らしき獨立、若くは男らしき信任と男らしき自任——此二者は互に矛盾するが如く見ゆれども、共にせざるべからず」と。凡そ人たるものは、幼時より老年に至る間、多少其教養修練に於て人に負ふ所なきはなし、而して最善の人最強の人は、常にかゝる幫助を承認するに速なるものなり。例へば故アレキシス・ド・トクザキールの如し。彼は父母共に上流の人、父は佛の有名なる華

族母はマルスヘイアブの孫女なり。彼家の勢力に依りて年僅に廿一歳にしてヴェルセルの聽訟官となりき。然れども自己の功績に依りて正當に其地位を得たるにあらざることを感じたり。けん彼は其職を棄て、獨力以て將來の進運を拓かんと決心したり。言ふ人あらん「愚なる決心よ」と。然れども彼は敢然として之を實行しぬ。彼は職を辭し、北米合衆國漫遊の目的を以て佛蘭西出發の準備をなしぬ。此旅行の結果は、彼の大著「亞米利加の民主政治」に於て世に發表せられたり。彼の友にして旅行同伴者なるガステイブ・ド・ポームントは、此旅行中に於てトクザキールの精勵にして倦まざりしことを記せり。彼曰く「トクザキールの天性は懶惰と全く相容れず、旅行の時も休息の時も彼の心は絶えず働き居れり。彼に於ては最も愉快なりし會話は、是れ最も有用なるものなりしなり。惡しき日とは無益に費されし日、又は惡しく費されたる日なり。極少なる時間の損失も彼に取りては大苦痛なりき」。トクザキールの一友に與へし書に曰く「人生に於て全く無爲にして過し得べき時はなし。身體及び精神の努力は、老年に及びても青年の時と

等しく必要なればなり。此世の人は恰も寒氣いや増さる地方に進み行く旅人の如し。進めば進むほど益々其身を働かせざるべからず。精神の大病は寒冷なり。されば此恐るべき病に罹らざらんが爲めに、吾人は常に精神的勞働を爲すべきのみならず、又人生の活事務に於て人と接觸すべきなり」と。

かくの如くド・ト・クザキールは、精勵自助の必要を確信せしと雖も、亦多少に拘はらず他人より受くる幫助扶掖の有効なることを認むる人なりき。彼は其友ド・ケルゴアレー及びビストツフェルスに負ふ所あるを承認し、且つ感謝せり。彼は智的幫助をド・ケルゴアレーより受け、道德的幫助及び同情をストツフェルスより受けたり。彼がド・ケルゴアレーに贈りし書簡に曰く「御身は余の信賴する唯一の人なり、余に眞感化を與へし唯一の人なり。余は余の行爲の細事に關しては、他の多數の人より感化を得たり。されど余の根本思想の創造に於て、又行爲の法則なる主義の形成に於ては、誰人も御身ほど余に感化を與へざりき」と。又彼は其妻マリーが彼の心を勵まして彼をして其學事に成功するを得しめしとて大に其妻に負ふ所ありと曰ひ居れり。心高

潔なる婦人は知らず識らずの中に其夫の品性を高め、心卑陋なる婦人は、其夫の品性を低くすと、是れ彼の信じ居たる所なりき。

◎ 仮曰く「余は今日まで幾百回も、薄弱の人にして、妻の幫助あるによりて醇正なる公徳を表はしたるを見たり。妻の彼を扶持するは一々其行爲について彼に忠告することよりは、寧ろ職分志望を取扱ふ方法の上に強き感化力を與ふことにあり。然れども、余は右の如き妻の善感化の例よりも惡感化の例の方を遙に多く見たり。彼等は其本性寛大にして私心なく、且つ偉大になり得べき能力さへ備へしが、其家庭の生活は、彼等を壓して野望と鄙吝の精神とを有する賤陋我欲の人となしぬ。今や彼等は國家に關する問題も、只我利益安樂に關する點に於てのみ考ふるに至りたり」と。

之を要するに、吾人の品性を形成するものは、數千の善感化なり、模範なり、教誡なり、傳記文章なり、朋友なり、隣人なり、吾人の住む此世界なり、而して又吾人に嘉言善行を遺したる祖先の精神なり。是等の感化力の大なること、疑を容れずと雖も、人は自ら努力して我幸福を作り、善行を爲さざるべからざる。こと又賢人善人は他人に負ふ所大なりとも、本來自ら己を助けざるべからざることは著るく明かなりと謂ふべし。